

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 令和2年度通常総会 議事録

1. 開催日時 令和2年5月31日（日曜日）14時00分～16時57分
2. 開催場所 東京事務局（東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目12番8号）
なお、当日出席の会員の一部は、Zoom システム（テレビ会議システム）によるログイン方法によりログインし、会場の画像及び音声の配信を受け、質問及び議決権行使を行う方法により本総会に出席した。
3. 有効出席数 正会員総数 1356 名中 896 名（内 当日出席者 214 名、議長委任者 653 名、書面表決者 29 名）
4. 審議事項、議事の経過の概要及び議決の結果

<議長の選出>

定刻、当法人定款の規定により、高橋事務局員が議長の選出について出席者に諮った結果、総会に出席した正会員の中から、田頭篤が議長に推薦され選出された。議長は総会の開会を宣言した。事務局より正会員総数、有効出席数、書面表決結果の報告を行い、議長は本総会が適法に成立する旨を宣した。さらに、議長は、本総会においては、上記のとおり一部の会員が Zoom システム（テレビ会議システム）によるログイン方法によりログインする形で参加しているところ、関連するシステムが特段の支障なく稼働していることを確認し、議事に入った。続けて、議事録署名人の選出について出席者に諮った結果、久澄園子、前原恵が選出された。また、本日出席の理事・監事の紹介があった。そして冒頭、竹本理事より「新型コロナウイルスによる活動への影響」についてメッセージがあり、議案の審議に入った。

<第1号議案>令和元年度事業報告並びに決算及び監査報告について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、小池理事より事業報告の説明が、津田理事より決算の説明があった。また、小藤監事より、「監査の結果、法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産及び収支の状況はいずれも適正妥当であった」との監査報告があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、賛成多数にて承認された。

なお、議長は、Zoom システム（テレビ会議システム）によるログイン方法により出席している会員からインターネットにより受け付けた質問に回答する旨を述べ、議長及び担当理事から回答を行った。

＜第2号議案＞令和2年度事業計画並びに予算について

(1) 議案説明

総会議事資料に基づき、竹本理事より前文の説明が、津田理事より事業計画の説明が、亀井理事より予算について説明があった。

(2) 審議結果

質疑応答の後、賛成多数にて承認された。

なお、議長は、Zoom システム（テレビ会議システム）によるログイン方法により出席している会員からインターネットにより受け付けた質問に回答する旨を述べ、議長及び担当理事から回答を行った。

＜第3号議案＞令和2年度役員を選任について

(1) 議事説明

総会議事資料に基づき、竹本理事より、令和2年度の理事として小栗由香、亀井直人、小池秀裕、斉藤俊哉、高橋尚矢、竹本記子、津田壮彦、中西百合、本宮大輔、加藤貴美子、徳山可之、林加代子が提案された。あわせて監事に上井靖、疋田恵子が提案された。

(2) 審議結果

質疑応答の後、賛成多数にて承認された。

なお、議長は、Zoom システム（テレビ会議システム）によるログイン方法により、出席している会員からインターネットにより受け付けた質問に回答する旨を述べ、議長及び担当理事から回答を行った。

被選任者は、席上、その就任を承諾した。

以上をもって本日の議事は終了し、議長は16時57分に時閉会を宣した。なお、開始から終了までテレビ会議システムは双方向性と継続性を維持した。

令和2年5月31日

住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目12番8号

名称 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以上、本会議の議事及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人はこれに署名捺印する。

令和2年5月31日

議長 田頭 篤 印
議事録署名人 久澄園子 印
前原 恵 印

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 令和2年度通常総会 議事録

－補足資料（質疑応答）－

<総会議事資料正誤表>

誤		正																																	
<p>P3 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業</p> <p>1) 従来 of 公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)</p> <p>● また、准講師トライアルを1回実施しました。</p>		<p>P3 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業</p> <p>1) 従来 of 公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)</p> <p>● また、准講師トライアルを2回実施しました。</p>																																	
<p>P4 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動</p> <p>1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)</p> <p>● 令和元年台風19号の支援活動において中央共同募金会より1,830,000円の助成金拠出を受けました。</p>		<p>P4 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動</p> <p>1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)</p> <p>● 令和元年台風19号の支援活動において中央共同募金会より1,090,000円の助成金拠出を受けました。</p>																																	
<p>P5 I 特定非営利活動にかかる事業</p> <p>1. 調査・研究事業</p> <table border="1" data-bbox="245 1608 780 1899"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業内容</th> <th rowspan="2">実施日時</th> <th rowspan="2">・・・</th> <th colspan="2">受益対象者数</th> </tr> <tr> <th>会員</th> <th>一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">北海道支部</td> <td>1月11日</td> <td>・・・</td> <td>2</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>2月1日</td> <td>・・・</td> <td>0</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>		事業内容	実施日時	・・・	受益対象者数		会員	一般	北海道支部	1月11日	・・・	2	19	2月1日	・・・	0	12	<p>P5 I 特定非営利活動にかかる事業</p> <p>1. 調査・研究事業</p> <table border="1" data-bbox="815 1608 1350 1899"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業内容</th> <th rowspan="2">実施日時</th> <th rowspan="2">・・・</th> <th colspan="2">受益対象者数</th> </tr> <tr> <th>会員</th> <th>一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">北海道支部</td> <td>1月11日</td> <td>・・・</td> <td>19</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2月1日</td> <td>・・・</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		事業内容	実施日時	・・・	受益対象者数		会員	一般	北海道支部	1月11日	・・・	19	2	2月1日	・・・	12	0
事業内容	実施日時				・・・	受益対象者数																													
		会員	一般																																
北海道支部	1月11日	・・・	2	19																															
	2月1日	・・・	0	12																															
事業内容	実施日時	・・・	受益対象者数																																
			会員	一般																															
北海道支部	1月11日	・・・	19	2																															
	2月1日	・・・	12	0																															

誤			正		
P23 4 交流・親睦事業			P23 4 交流・親睦事業		
事業内容	実施日時	実施場所	事業内容	実施日時	実施場所
	未定	静岡	地域イベント	11月	静岡
	未定	福岡		未定	福岡
	未定	東京		未定	東京
	未定	札幌		未定	札幌
	未定	仙台		未定	仙台
	未定	大阪		未定	大阪
	未定	広島		未定	広島
P24 令和2年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算書			P24 令和2年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算書		
収入合計	金額（単位：円）		収入合計	金額（単位：円）	
東北	1,520,000		東北	318,500	
東京	270,000		東京	1,520,000	
中部	450,000		中部	270,000	
関西	270,000		関西	450,000	
中国	224,000		中国	270,000	
九州	318,500		九州	224,000	

<第一号議案> 令和元年度事業報告並びに決算及び監査報告について

議長より、Zoomの「手を挙げる」機能により質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問)「ボランティアで動いている組織には限界がある」という事実がある中で、意見をまとめたということだが、委員会や有志で行っている活動（システム管理委員会や広報委員会等）は、ほぼプロレベルのことを要求されているということが何年も続いている。それにもかかわらず「今年度も調査をしました」ということで終わっているということはどう考えているのか。いつまでに結論がでて、いつまでに負荷軽減が行われるのか明確にしてほしい。

回答) 意見交換会でも同様の意見が出されたと認識している。何年も負荷のかかっている状態があるという声があることをとらえている。システム委員会のメンバーの中では組織的に受け取って窓口の一本化など対応しようとする動きもある。なるべく負荷が偏らないように個別の連絡がないような状態にしていこうという方向で進んでいる。

「負荷の高いプロレベルの活動」に対して、フィーを払う必要があるという議論が改めてでてきている。適正な金額という明確なものはまだないが、「対価」のやり取りが必要ではないかと話があるので議論を継続していく。結論がいつになるのかはまだ明言できないが今年度取り組みをしていく。事業計画の話になるが「組織活動の持続可能性」に対し、コーポレート機能のことを検討することになっている。

意見) 持続可能性ということであれば、場合によってメンバーが無理だということであれば抜けてもいいということか。また、場合によっては遡って評価するということを考えているか。今まで問題の解決を先送りしてきたのであれば遡って考える必要があるのではないか。

回答) 意見として承る。おそらく規定を作ることからスタートすると思う。規定を作って施行するタイミングからフィーを払うということになると思う。「遡って」ということを組み込むことは難しいと考えている。

意見) 今すべてのメンバーがボランティアで動いているわけではない。「フィーが払えない」ということだが、NPO 活動において全ての活動においてフィーが払われていないわけではない。ファシサポや基礎セミナーはフィーが払われているので不公平感がある。組織として持続可能な状態か。

質問) 情報共有ツールとして Slack というツールがでてきたが、支部においては Stock というツールがスタンダードとして使われている。やみくもにツールを増やすことで使い方に慣れていない会員の活動の障害に繋がるのではないかと考える。またやみくもにツールを増やすことで一部の IT 管理担当者により負荷がかかっている問題を理事会はどのように考えているのか。どのように対応していくのか。ただ「使っています」ではなくて、「使っていく」と宣言したのであればどう使っていくのかを明確にしてほしい。

回答) 「やみくもに」とはとらえていない。評価されたものを使っていくととらえている。たくさん増えすぎると負担が増えるのは確かにそうだと思うが、やみくもには増やさないと考えている。

意見) 今日の総会でも Zoom の「手を挙げる」に戸惑う人もいる。メール以外のツールが増えることで「やみくもに増えている」という印象を持つのではないか。

回答) オンラインの中でのデジタル環境やデバイス環境の違いによってアクセスの仕方に課題があると認識している。今回は Zoom で開催したが来年度については引き続き検討していく必要がある。

質問) 監査が対面でできなかったという理由で、署名が 1 名しかないということに疑問がある。小藤監事から上井監事に書類を送っているのであれば、なぜ監事の署名が 1 名なのか理解できない。なぜ 2 名の署名がそろっていないのか。

回答) 資料は上井監事には送ってはいない。オンラインで確認できることをその都度確認してもらい監査を進めた。監事 1 名の署名で問題ないことを事務局経由で行政書士に確認してもらっている。

質問) 議事資料 P 5 で、北海道支部定例会の受益者数で 1 月定例会 (会員 2 名、一般 19 名) 2 月定例会 (会員 0 名、一般 12 名) とあるが誤記ではないか。

回答) 定例会レポートと総会資料の人数の齟齬があることを確認した。総会議事資料作成の際に転記ミスがあった。(補足: 総会議事資料正誤表を参照)

質問) 説明の際「活動縮小」ということであったが、支部イベントもいくつか中止になった。そうした中で予算が余っていると思うが予算を年度送りで繰り延べすることはできないのか。

回答) FAJ の会計は年度ごとに予算を計画しており、余った予算を会計上繰り延べするという考え方をしていない。

質問) イベントが延期となった際には予算を翌年度に繰り延べすることはできないということか。

回答) 「イベントを次年度に延期する」といっても予算は単年度なので改めて計上することになる。

質問) 議事資料 P 7 で、「2 月 22 日以降は次年度に至ってもセミナーは開催できていない」ということでよろしいでしょうか。

回答) 2 月 29 日以降セミナー開催はできていない。

質問) 議事資料 P 4 で、広報・コミュニケーション活動 (2) で「会員の実践事例収集のための取材をし、Web サイトに掲載しました」とあるが見つからないと意見交換会後の質問フォームに入れたが、補足資料になかったので改めて質問した。

回答) 公式 Web サイトに実践事例をどんどん掲載していこうと取材や準備しているが、広報委員会として掲載は追いついていない状態。ブログや FaceBook ページには事例を掲載している。

質問) 昨年度の実績の掲載としては公式 Web サイトではなくブログや FaceBook ページという非公式な場ということでもいいのか。

回答) その通りです。

質問) 補足資料 P 7 (36) で、Slack での情報交換の件で、答えの欄に「FAJ 公式 Slack 登録者数は 100 名ほど」書いてあるが、Slack というのは公式なもので会員が登録できるものなのか。一部の理事や拠点長が入っているものだと認識だった。公式のものであればどのように会員は参加するのか。

回答) NPO 法人として Slack を契約している背景がある。スタッフ会議の際に使うために契約し、その後は理事のコミュニケーションツールとして使うことにした。他のメンバーともメールではなく気軽にできるコミュニケーションツールを試してみるようになった。まだ本格的にオープンしているわけではなく、Slack が適切か 1 年使ってみて検討している段階。

質問) 「近隣の方々をご招待ください」というのは適切な回答ではなかったということか。

回答) もう少し使ってみようと思っている。これを機会に使ってみる人が増えるのであれば試してみたい気持ちはある。1, 2 か月で試してみたいという会員がいれば積極的にみんなで直接やり取りしたいと考えている。新しいツールは難しいというのは試してみてもわかった。

質問) 誰でも入れるのか。入れるとすれば誰に言えばいいのか。

回答) 会員であれば誰でも入れる。招待できるのは、理事は全員および Slack に入っているメンバーである。

<第二号議案>令和 2 年度事業計画並びに予算について

議長より、Zoom の「手を挙げる」機能により質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

意見) 第 2 号議案の中で「コロナが終わったら」という説明をしていたが、各々の拠点で活動を再開の判断を行うと思うが、「終わった」という判断を FAJ として対外的なものを含めて決めておいた方がいいのではないか。

回答) 「コロナが終わったら」と判断するのは難しい。イベントの実施判断ということでは流行初期に FAJ としてメッセージを出した。最終的には地域の状況に影響されるものなので、その地域の状況を確認しながら実施することになると考えている。

意見) コロナに関しては「After コロナ」というより「with コロナ」という状況が続くと思われる。この状況において定例会やセミナーをどうしていくのかという視点での検討が必要ではないか。

回答) 「After コロナ」、「with コロナ」を理事会でも考えているが理事会だけでなく情報共有しながら全国で考えていくことが大事だと思っている。自律分散型、ネットワーク型という我々が目指した形の時代が来たと感じている。

質問)「活動の縮小による会員数の減少」という説明があったが、そもそもリアルの定例会やイベントを想定していると思うが、オンライン化によって活動が縮小するより逆に増えることもあると思うが、「活動の縮小による会員数の減少」のエビデンスを教えてください。遠隔地の会員にとってはオンライン化によって参加しやすくなっている。

回答)会員の減少について説明したが、情報として「入会のきっかけの種類」とがあり、2019年度は300名ほどの新規入会者があったが、140人ほどはセミナーがきっかけで入会したと答えている。セミナーが開催できない中で新規会員の減少の可能性があるかと捉えている。また、ファシサポの案件の依頼数も止まっている状況。外部との接触の起点がない中で減少を予測している。遠隔地の会員がオンライン化で参加しやすくなっているというのは、自分達の活動を広く伝えていくことができる。オンライン化で会員が増えていくということを起こしていけると捉えている。

質問)多くの支部で冬に大きなイベントを開催することが多いが、コロナが流行する可能性がある。冬にコロナが流行するリスクを踏まえた結果の事業計画か。

回答)冬のイベント開催リスクの話だと思うが、今冬のコロナのリスクを想定しているが、まずどういった形でイベントを実施するかは各拠点、各支部が考えていくことになる。オンラインとしてイベントを実施することもありうる。オンラインイベントであれば支部をまたいだ形で行われる可能性もあると考えている。

質問)先ほどの質問にあった「リスクを踏まえた結果か」という点についてはどうか。

回答)当初からリスクを考えた上でイベントをやっていくとは考えてなかったが、オンラインも含めてやるかやらないかは理事も含めて考えていかなければならない。

意見)完璧な回答とは思わない。去年の冬とこれからはレベルが違うと思う。「FAJは自律分散型組織だから各支部で考えてください」という理事会の発言があったが、無責任な感じをいつも受けている。自分たちが責任を取りたくないで「自律分散な組織だから各支部で考えてください」と取れる。

回答)「拠点で考えて」という意味ではなく「みんなで一緒に考えたい」と伝えたつもりだった。

意見)3000万円近い内部留保、繰越金があるが、今回のこの事態は災害なので恐らく2年くらいは対面の行動は制限されると思っている。これだけ繰越金があるのになぜ赤字が出ることをこれほど問題視しているのか。体力があるのであれば体力を使って乗り切ればいいのではないか。

回答)すでに赤字予算を組んでいる。縮小するというより、このままの状況で前向きな活動を進めていくという予算と捉えている。災害を耐える体力があるについては、現時点単年で影響があるとは考えていないが、年次で1000万円の赤字になる実績が積みあ

がると、あっという間に枯渇してしまうこともあるので会員数に注意を払うことも必要だと捉えている。

質問) 会員の減少というのは、入ってくるより出ていく方が多い。既存の会員がどれだけ落ちていくかを見ていかなければならないと思う。

質問) 「新たな会員獲得」のみが、FAJ 会員の減少の原因とされているが、それだけではないのではないか。内部で活動しているメンバーのケアが行われていないために既存会員が減っていることに目を向けるべきではないか。継続する会員が減るというのも問題ではないか。

回答) 「ワクワクする改革」というキーワードで進めていこうというのは、既存会員のことを考えてやろうとすることになる。「既存会員のケア」というのが具体的に何を指しているのか、具体的に何かをする時の「支援」がどこまでできているのかということ、「支援」にかけるリソースという話であれば実感がないのかもしれないが、「みんなが活動しやすいような仕組みづくり」など、今できていないことをよりよく変えていこうということ、拡大理事会場の場を使って取り組んでいるので引き続き進めていく。

質問) コロナを想定せず事業計画や予算計画を立てたと想定している。3 か月程度対面ミーティングを行えない中でこのままの計画でいくのか。どこかのタイミングで修正することはあるのか。修正するとすればいつ頃を想定しているのか。

回答) コロナ前とコンセプトはかわらないがやりたいものができなくなることや、新たなことが起きることは想定している。やり方、方法論、執行の見直しはあると思うが、事業計画を根本的から見直すということの必要があるかということは、進めていきながら考えることになる。

意見) 理事会では認識しているし、1年間これで進めていこうとしているということだと思うが、FAJ は予算の執行の把握が遅いが大丈夫か。

回答) 把握のところは会計上のコミュニケーションのやり方だと思っている。

質問) ファシリテーションの定義について違和感を感じた。対面型で相手を促進するかに注力してきたが、理事会が認識している「ファシリテーション」はどういう定義か。

回答) ファシリテーションの定義の違和感のことだが、「対面」だけをファシリテーションと定義づけてはいない。HP に記載しているが「人と人が集まる場面において人々の活動が容易にできるように支援し、事がうまくいくようにかじ取りすること」というのがファシリテーションの定義としている。今の状況下としてオンラインでのファシリテーションも研究していく。以前からオンラインのチャレンジをしてきたが割合として強くなっていく。これからは両方を合わせていくような未来のファシリテーションが作り出していければいいと思っている。

質問) ファシリテーションの定義は変わらないという認識でいいか。そうであれば定義は抽象的でも、表現技法、実践方法は双方では異なると思う。相手方がどうとらえたかという感覚と論理はすごく違うと思っているが同じなのか。総会資料で書き分けていないのでわかりにくい。

回答) 定義は変わらない。ファシリテーションのやり方になると思う。やり方は場面ごとに違うと思う。私たちは各研究を行っていくところだと思う。

意見) 議事資料では「対面型」と「オンライン」を書き分けていない。この表現ではわかりにくいと思っている。

回答) 意見として伺う。一緒に考えていきたいと思っている。

質問) セミナーは開催できるとは思っていない。セミナーのやり方を理事会やセミナー委員会、講師は検討する予定はあるのか。必要があるとすればいつ頃まで検討されるのか。

回答) セミナー委員会では、セミナーを開催するために考えることがたくさんあるという意見がでている。まずはプロジェクトチームを立ち上げ検討行う段階。時期の見通しについてはまだ明確に回答できない。

意見) 私はセミナーアソをしているがセミナー委員会が行われているというプロセスを全く知らない。全体での進め方にかかわることなのでセミナー委員会として分散しながらも一体として活動できない状態なのであえて質問した。

質問) 「ターミナル」という表現は多くの人から「違和感がある」という声がある中、あえてこの表現を使うことについてどんな議論があったのか聞きたい。

回答) 「違和感が多く上がった」と表現してしまったが、多く上がったとはいえ「ターミナル」に対して前向きをとらえてもらった意見が圧倒的に多く、議論を深める中でイメージが広がっていくことも大きくあった。「ターミナル」という言葉は、1月拡大理事会で仮発表させてもらい、そこで議論した時も色々な言葉の定義があり「集まる、終結する、終末」と意味もあるが、「そこから新しいものが生まれる」というイメージを持つ人も多い。これだけの歴史の中、いったん FAJ としてののから再出発という意味も込められるというところで、議論すればするほどみんなの想いが広がっていく感覚も得た。安易、簡単にわかってもらえる言葉より私たちとしてはこの言葉がよいと纏まった。どんな言葉を載せたとしても解釈は多様。それに関して何も議論しないというより、みんなの言葉を紡いだ時に多くの人に賛同を得た。これについて議論することが時間の無駄だとは考えていない。

意見) 事前説明会では会員に対する同調圧力を感じていたというのが正直な気持ち。

意見) 事前説明会でも多くの人が違和感や反対の声があったが物議をかもしような表現を使って議論のきっかけにするという手法もあるが、「ターミナル」という言葉の独自解釈の理解に時間を使うより本当に何をしていくのか、どう実現していくのかを考えることに時間を使うべきではないか。ワクワクではなくイライラになっている。

意見) 「ターミナル」の基盤になるのは「他団体とのコラボ」ということで積極的に進めたいということだったが、一方で自コンテンツの研究開発は予算がゼロでここでは語られていない。他団体にコンテンツは求めるが、自コンテンツは促進しないというようにアンバランスにも聞こえた。

質問) 他団体とコラボするというのは、理事は FAJ には自コンテンツがないから外に求めるということを理事が言い訳しているようにも感じるが、自コンテンツを放棄しないという意味で他団体とコラボすることであれば、それはどういう意味か。

回答) 「FAJ にコンテンツがない」と聞こえていたなら残念である。FAJ には積み重ねてきたリソースはあるが外に対して伝えきれていないことはあるのではないかとということが、議論の中で出てきた。中の良さというのは、外の方々と触れ合うことで自分達がどれだけやってきたかということも見えてくることがある。また合わせていくことで新しいものが創造されることもあるので、積極的に外に向けてよりよいものをよりよい社会をつかっていくための発信を強化していきたい。FAJ はよりよい社会を作っていくために貢献するための組織だと思っている。

意見) 質問の意図は他団体とのコラボがよくないというわけではなく、他団体とのコラボをする前にまず FAJ のコンテンツがどういうものがあり、どういうものを促進するという議論が先に来る気がしている。前提がないままに他団体とのコラボというように聞こえてしまった。FAJ 自身の外に発信するための確認や促進は道義ではないかと思った。

回答) みんなで力を合わせてやっていきたい。

<第三号議案>令和2年度役員を選任について

議長より、Zoom の「手を挙げる」機能により質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 理事の人数が増えているが、理由を教えてください。

回答) 前年度は減らしている。今年度は一定数のメンバーは理事を経験しているのでワクワクな改革に力をいれたいことと、個々の負担感を減らしたい面がある。

質問) ワクワクな改革には人数は足りないのか、こういうオンライン化に見合った人選なの

か。理事選挙の人数は何人なのか。年度によって理事を増やしたり減らしたりできるのか。

回答) 運営歴が2年以上ある方は投票権を持つ。推薦事務局が案内して票を入れてもらう。投票数の多い3名が一次候補者になる。一次候補者は得票数やこれまでの関わり方で候補者を選出する。理事は15名以内と定款にある。

意見) FAJは組織の意思決定のスピード感が遅い。理事の人数を増やすことがスピード感のため適切なのか疑問に思う。

<その他>

意見) 監事の署名の件、行政書士がどういったかわからないが、監事が1名署名なら理由の付記が必要になる。

意見) 今年はオンラインが増えてワクワク感といわれていたので手上げて色々な支部に手上げて動いているが外部から招聘をアイデアベースでいった人をリスペクトなく進めることをやめてほしい。

意見) ニュースレター64号の記事に疑問を感じている。1000人のオンラインミーティングあたかもイベントがうまくいったことだけが書かれている。うまくいかなかったことも含め正しい情報共有が行われていないと感じた。

回答) 広報委員会として意見として頂戴した。記事の方向性を確認する。

意見) こういう方針とは、どういう方針なのか。曖昧でわからない。

回答) 日々の方向性のこと、意見として頂戴した。

意見) 「コロナの状況下でのイベントの実施は、拠点判断、自律分散でやる」という説明は理解したが、10年前の新型インフルエンザの際には緊急対策室というのがあり、そこで情報を集約してやっていた。FAJとしてセンターで扱うところがあったと記憶している。色々なことを拠点で判断し実施することで構わないと思うが、今はオンラインで問題が起きると思っていないが、今後リアルな場に挑戦する中、感染者やクラスターが発生する可能性もある。FAJとして外部にコミュニケーションする方法が見えない。判断して行動するのは拠点でいいが、何かあった際に説明責任を負うということをどのように考えているのか、何か考えてもらえるとありがたい。

回答) 賠償責任の話はあがっている。法人としての責任についてのアジェンダは上がっている。なるべく早く考えなければならぬと個人的に考えている。

以上